



Yonago East Weekly

●創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
●例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
●会長/井上賢明 ●幹事/岩崎 浩 ●会報/荒川圭三

出席報告

会員数79名

今週のお祝い

結婚記念祝 :1日 植田昭君 11日 木下博夫君
13日 井上賢明君 13日 永島清孝君 15日 豊嶋
文章君 18日 高林和夫君 20日 丹藤知基君 20日
戸田忍君 22日 佐田山有史君 23日 尾沢三夫君
24日 野坂美仁君 27日 田淵亮達君

会長挨拶

明後日からの連休はゴールデンウィークと言いますが、これは私が生まれた年1951年頃に映画の宣伝文句で使われた商業用の言葉だそうです。黄金週間とか大型連休とか色々な言い方をしますが、NHKとか一部の新聞や民放は、商業用語だから使わないと言う事があるそうです。

このゴールデンウィークの国内旅行は3割減、海外旅行は2割減とその様な数字が出ています。加えて原油高で中々車での移動も控えると言う事で、いつもと違った震災の事もありまして、いつもと違った大型連休かなと言う気もしております。その様な中、今東京で申し込みが殺到しているのが東北へのボランティアで、真似の出来ない事だと思っています。

先日亡くなりました国民的アイドルで元キャンデーズのスーちゃんが、3分20秒のラストメッセージに息も絶え絶えに、「自分は病気に負けてしまうかも知れないが、天国に行っても被災者の為に何かお役に立ちたい」と放送されておりました。大変胸が熱くなりました。復興を目指して「頑張れ日本、立ち上がれ日本」と、皆がそんな風に思っている、胸が熱くなる

思いでございました。来週はお休みでございますが、連休中は充分リフレッシュしたり、時間が沢山ございますので色々な事を考えながら又連休明けに元気でお会いしたいと思います。

幹事報告

- 4/17IM登録、参加お礼文書(第1.2G G補佐、倉吉中央RCより)
- 4/24地区協議会、事務局研修会出席お礼文書(ガバナー・エレクト事務所より)
- 第2回第2G会長幹事懇談会(引継ぎ)開催日
日程照会 (米子RCより)
- ロータリーレート5月 1ドル82円
- 例会変更のお知らせ
松江南RC5/2(月)休会(定款第6条)
米子南RC5/16(月)移動例会 5/15に変更

”



Let's Join!

すすんで参加しよう!

《プログラム》

「東日本大震災について」

鳥取県西部広域消防局

警防課 多田 儒司



今日は著名な方々の前で緊張しておりますが、先般ありました東日本大震災の話、又昨年の年末年始にありました豪雪の話をお話しします。先ず近年稀にみる豪雪と言う事で昨年の31日から始まりました。

例年の救急件数は日に30～40件ですが、31日に2倍 1日に6倍に跳ね上がりました。大体200件近くで12台の救急車では足りませんでした。ひっきりなしに119番が掛かって来ましたが、停電による不安、9号線の大渋滞によって車両の中で気持ちが悪くなったと言うものでした。中でも在宅で人工呼吸器が停電によるバッテリー切れで、救急隊員が手動で人工呼吸をやる一方、業者にバッテリーを取りに行ったという事例がありました。又透析の患者さんが通院するのに行く手段がないと言う事で救急要請がありました。稀による豪雪で消防局の方も正月なしの交替で泊まり込みを致しました。

次に東日本大震災についてですが、非常に恐ろしさと言うものが有ります。我々が入った南三陸町志津川と言うところですが、住民の方々はこの津波が分からないんですね。避難された方がインターネットに投稿されたこの映像でも音が無く静かにやって来て殆ど気が付きません。地震直後から20分で第一波が到着しています。海上での津波の速さは時速80kmと言われますが、陸上に上がれば百数十kmで到着します。この津波が今度は引き波になって帰ります。その強さは1㎡当り3000tと言われていています。ですから家屋は流されて殆ど有りません。次にスライドで説明します。我々が這入った戸倉地区は駅もあり世帯数が640軒有ったそうです。大地震の発生は3月11日14時46分ですが、この2日前にこの辺りでM7の地震が有りそれが前兆で有ったと今朝のテレビで発表されておりました。最初の発表はM8.8で最大震度7と言う事でしたが、後で調べますと震源域の3か所が数分間に次々発生し、これを積算するとM9になると言われる地震です。

我々は緊急消防援助隊という名目で、総務省消防庁長官の命令で出動致しました。本来我々が向こうに行く事はないんですが今回は想定外と言う事で、全国で4500隊のアクシンプランが作られ、被害の無い地方の沖縄まで出動命令が出ました。鳥取県の登録隊数は34隊で、消防部隊、救助部隊、救急部隊、後方支援部隊があり、全て自給自足ですから自分達で食料を持って行って現地に迷惑を掛けないというものです。但し油だけはタンクローリーが政令指定都市しか渡されておりませんので今回は給油の面で非常に苦労しました。3月12日出動命令が掛かった日です。前の日から待機をしておりましたが、朝5時半に消防庁長官より正式に出動要請があり、6時に召集が掛かって準備をし8時15分に出発致しました。指揮車、工作車、ポンプ車、救急車、後方支援車が第1次派遣隊です。後方支援車は昨年消防庁からの借用ですが、この中で食事をしたり作戦会議をしたり寝泊りをしたり、この後にはこの隊全部のテント、食料が這入っています。1台7千万円で全国都道府県に配られるらしいですが、鳥取県は16番目で1ヶ月程訓練したら本災害が有ったと言う事です。当初は被災地の状況把握が出来なく、とにかく北に向かって走れという指示で、鳥取県の東・中・西部の14隊56名16車両の第1次派遣隊が静岡県で集結し2日間かけてやっと到着いたしました。住民の方、地元消防隊の方は作業中でしたが、我々が一番最初に入ったと言う事もあり、全員が路上に並んでお辞儀をしたり手を合わせたりして迎えられました。本来緊急消防援助隊と言うのは捜索とは違い人命救助が主目的です。捜索になると警察や自衛隊になるのですが救助が主な目的ですから何とか生存者をとったのですが、一日目に用水路で遺体を1体発見致しました。2万人からの行方不明者ですからもっと沢山の遺体が有り傷ついているのではと思っておりましたが、全部で十数体の遺体を収容し殆どが無傷で95%の方が水死と言うものでした。

最後は皆様のご冥福を祈り黙とうを捧げ、第1次派遣隊の3日間の活動を終え第2次派遣隊と交代し我々は帰ってまいりました。